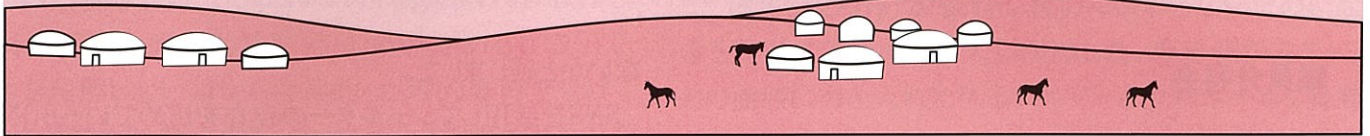


Newsletter

vol. 47

「ぴあ・かもみーる」日記②③ ●

子どもシェルター全国ネットワーク会議 ●



パオの
現いま

「ぴあ・かもみーる」日記 ②③

2019年に前職を60歳で定年し、その年の12月からパオで仕事をしています。初めはシェルター「丘のいえ」(現在休止中)で、その後、自立援助ホーム「ぴあ・かもみーる」で生活支援員として従事して、まもなく3年になります。前職では児童養護施設3カ所と自立援助ホーム1カ所で児童養護の仕事を経験してきましたが、パオの施設はそのいずれとも違う存在です。

「ぴあ・かも」の特徴は、1つには就労を前提としない自立援助ホームという点です。疲れた心と体を休め自分を見つめる時間を大切に、人との関係を学びながら、就労体験・社会経験を積んでいます。子どもによっては学校に通う場所ともなります。

「ぴあ・かも」で過ごす期間は概ね1年ですが、その子に応じての期間を過ごしなが、次のステップへ移ります。子どもの気持ちを汲みながら、他の自立援助ホームやグループホームのほか、住み込み就労、アパートでの一人暮らしなど、一緒に考えていきます。

パオに来てくれた子には男女2人のパートナー弁護士が関わり、「ぴあ・かも」を出た後も、継続して支援していく。非常に心強い2つ目の特徴です。

行き場のない女の子、特に15歳以上の子は想像以上に多く、児童相談所の一時保護所は常に定員オーバー状態です。「ぴあ・かも」にも見相の依頼を受けて一時保護の15歳前後の女の子を何度か、お預りしています。中学生や全日制に通う高校生は、児童養護施設から通うのが良いのですが、思春期の子どもたちは、なかなか養護施設での生活は難しいのが現状です。

問題のある家庭環境を脱したものの安心できる居場所が定まらない15歳前後の子どもたちは、大切な教育の機会を奪われてしまう場合が少なくありませ

ん。人生最初の分岐点ともいえる15歳は、人生の今後を決定する重要な年齢でもあります。問題や虐待のある家庭環境や学校でのいじめなどで、小中学校のころから楽しく学ぶことができないまま、高校に行けなかったり、中退したりして「ぴあ・かも」に入所してくる子どもも多いです。

ある子は「自分の意志で居場所のない家を出て見相に相談した。高校に通い続けるために児童養護施設に入ることを希望したが空きがないと断られて高校を退学した」と悔しそうに話していました。彼女は、「ぴあ・かも」にいる間に、働きながら通信制の高校に4年間通って自立するという、新しい目標に進み始めました。既に「ぴあ・かも」を卒業していますが、今も苦労しながら通信制高校での勉強を続けています。パートナー弁護士も支えています。

学びたくないと思っている子どもはいません。皆が、機会さえあれば、学びたいと思っています。児童福祉の施設は、子どもたちのニーズに応じて変わりつつあります。家庭にいられない子どもたちに、「強いられた自立」の前に学校に行ける道もあると示したいです。

「ぴあ・かも」は働くことを前提とせず、さまざまな事情の子どもたちを受け入れ、子どもたちの希望に応えられる可能性が高い施設だと思っています。子どもたちが教育を受ける権利をきちんと保障するために、これからも最善を尽くす施設でありたいと思っています。(スタッフ・T)

